

受験生保護者各位

御挨拶

駒込中学校高等学校
校長 河合 孝允

新年明けましておめでとうございます。

年も改まり受験の時期に入ってまいりました。大切なのは平常心の維持と健康管理です。
受験生の皆さんのご健勝を心からお祈り申し上げます。

さて、教育改革が急ピッチです。

文部科学省は、24年度に国立大学を法人化して以来、はじめて国立大学の立て直しを目的とした421億円の基礎研究支援措置に踏み込みました。さらに文科省は、大学の理系転換支援策として、今年度補正予算に総額約3千億円の基金を創設しました。この基金は予備調査段階から補助支出されるため、予想以上の人気が集まっています。特に大都市圏の文系を中心とした大規模私大での理系転換や文理融合教育の推進強化に充当され、人気を博しています。この背景に、産業界からの強い要請であるデジタル人材10万名の早期育成課題があります。これを受け文科省は理工農系や保険系を専攻する大学生の割合を、現行の35%から40年度までに過半数を超える52%まで増やす方針を立てています。これには男子学生だけでは足らず、文系に偏っていた女子学生を理系に呼び戻すことが必要なため、どこの大学も一般入試とは別に女子枠入試を新たに創設して学生募集に走っています。いわゆる「リケジョ入試」の時代が切って落とされています。この基金を使った改革事例として、例えば都内にある明治学院大学は基金を活用して校舎を新設し、入学定員80名の情報数理学部を新設、3Dプリンターも導入し、文系志願者からも情報学部入学を可能としています。そして、1・2年次に数学や情報システムを学んだ後、3年時に「数理量子情報」や「AIデーターサイエンス」や「情報システムセキュリティ」を選択履修することができるよう制度改定しています。また、このような改革は高大接続改革として広く高校にも適用され、理系育成を進めるための高校向け基金3千億円を文科省は予算化する方針をうちだしています。

ところで本校は、すでに25年前からミレニアム改革に着手しており、これらの改革の先進事例校として高い評価を受けています。これから時代は一口で言えば「AGIとIoTの時代」となります。すなわち、人の脳の仕組みを模したニューラルネットワークを兼ね備えた「汎用人工知能」と「モノのインターネット化」時代が到来します。したがって、21世紀の後半を生きていく生徒たちに与えておくべきスキルは、10年先を見通した未来選択能力の育成です。これからは、子供たちを未来からの来訪者として迎え入れた人間教育にウイングを切るべき時代です。「知るとは出来ること」の時代の幕開けです。皆様方のご子息・ご息女とのご縁がいただけましたら幸いです。「頬につたふ涙のごはづ一握の砂を示しし人を忘れず」という石川啄木のうたがあります。もの言わぬ子どもたちの持つ痛みや悲しみにも、きちんと寄り添いながら、温かな校風の学園づくりをしてまいります。ご理解いただけましたら幸いです。寒さ厳しき折、ご家族の皆さん、ご自愛くださいますようお祈り申し上げます。

合掌